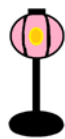
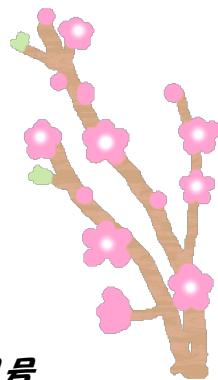


21世紀の森と広場



# とんぐり



パークセンターだより 第125号 2014年2月・3月号

## ふゆめ 冬芽を観察しましょう

自然解説員  
ふじ 藤 田 たい 泰

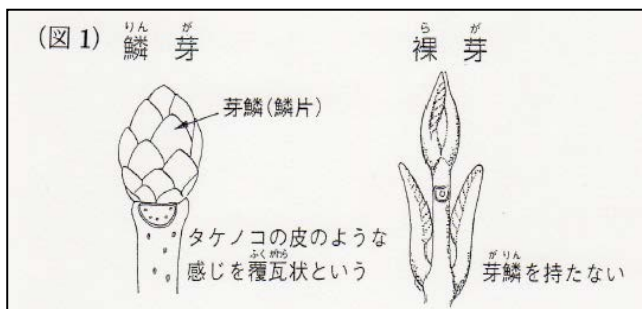
冬の落葉樹は、春になって伸びようとする冬芽を枝先につけて、寒さや乾燥に耐え、動物にも食べられないような工夫をして冬を越しています。草は、種子で冬を越すもの、温かい土のなかで越すもの、地際に葉を広げて太陽熱を受けて越すものがあります。こうした植物たちの冬越しの姿は工夫に満ちていて感動的です。人も工夫しなければ生きて行けませんね…

冬芽の下側には、前年の葉が落ちた跡(葉痕)があります。その形は愛らしい動物の顔などに見えるものがあり、ユーモラスで楽しくなります。目や口のように見える点は、水分や養分の通り道だったところ(維管束痕)です。冬芽の姿・形は種類によってさまざまです。

鱗が重なっているような芽(鱗芽)、縮こまって毛に覆われているような芽(裸芽)などがあります。また、冬芽には、花芽、葉芽、混芽(花・葉・茎になる芽、ニワトコ、ナシ、など)があります。いずれも、半年



ひつじ 羊の顔に似たオニグルミの冬芽と葉痕



前の夏から秋にかけて形成され、冬が近くなると、  
鱗片や毛に覆われて休眠します。

(図1)によって、鱗芽、裸芽の形を確かめましょ  
う。

(図2)によって、頂芽、側芽、花芽、葉芽、葉  
痕、芽鱗痕(鱗芽の鱗がついていた跡)位置など  
を確かめましょ。

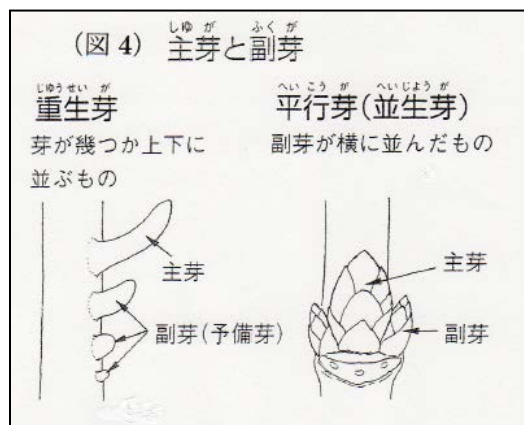
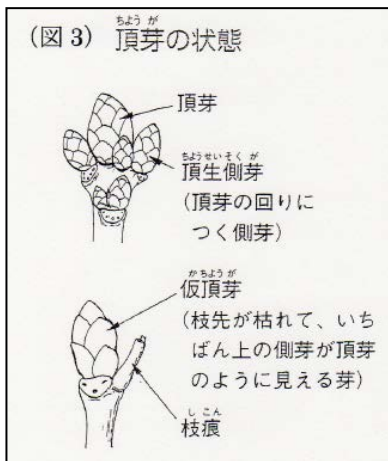
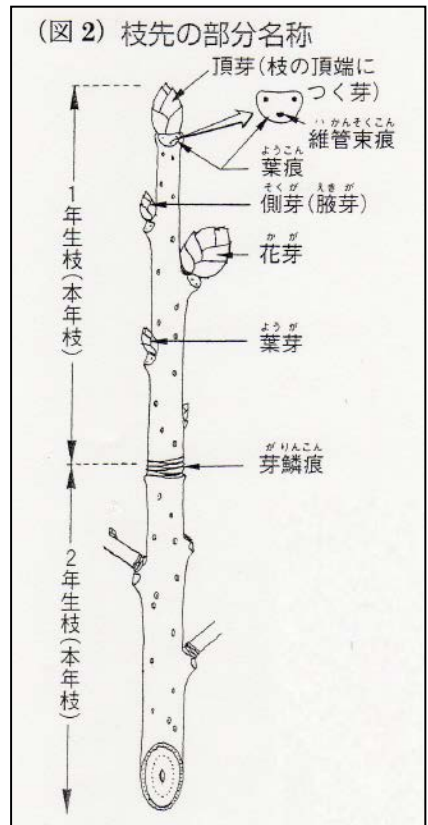
(図3)によって、コナラ、クヌギなどの頂生側芽  
、ヤマグワ、ヌルデなどの仮頂芽の形を見てみま  
しょ。

(図4)によってエゴノキなどの主芽、副芽のつ  
きかたを見てみましょ。

写真は、野草園で見られるオニグルミの冬芽と葉  
痕です。羊の顔に見えませんか。額に当たる部  
分の突起の上が主芽、下が副芽です。広い顔の部  
分は葉痕で、目と鼻に当たる部分が維管束痕です。

次に草は、種子で冬を越す一年草。地中の地下茎

で冬を越す多年草があります。多くの草は、秋に芽生えて寒くなると、葉を地  
表面にロゼット状(バラの花のよう)に広げて太陽の光とぬくもりを利用して  
光合成を行い、少しずつ葉を広げながら冬を越し、春になると一気に花茎を伸ば  
して花を咲かせ種子をつける2年草(越年草)です。



※(図1)～(図4)は、関東森林管理局高尾森林センター観察会資料を引用

# 菜の花

みどりの相談員  
あきもと みつじ  
秋元 満司

ひな祭りに、桃の花とともに飾られる菜の花ですが、菜の花のイメージは、やはり、春にあたり一面、黄色一色に染めて咲きほこる鮮やかさではないでしょうか。とくに千葉県では、菜の花畑が多く見られると思います。

私自身、菜の花の黄色一色の鮮やかな思い出として残っているのは、40年以上も前になりますが、宮崎県の田舎で大学時代を過ごしました時、入学前に大学の構内に入って目に飛びこんできた 3,000 m<sup>2</sup>ほどある広さの黄色い菜の花の花畑です。今でも強烈な印象として残っています。

菜の花について

(名) 菜の花 (別名) 花菜 菜花

(自然分類) アブラナ科

(園芸的分類) 秋まき一年草

(原産地) ヨーロッパ 東アジア

(花言葉) 豊かさ 財産

菜の花は、と説明しましたが「菜の花」という、ひとつの植物は有りません。菜の花とは、黄色い花を咲かせるアブラナ科アブラナ属の植物の総称で、小松菜、ブロッコリー、白菜、野沢菜など多くの植物の

花を菜の花と呼びます。ただ、理屈なく、菜の花と呼ぶと可愛らしいですね。

## 色々な菜の花

江戸時代頃から、種子から油を取るために栽培されていた。アブラナ。

今は、ほとんど輸入だそうです。

切り花としての観賞用の菜の花はハクサイを改良して作り出されたようです。食用もこれに準じるようですが、今は、各用途ごとに品種は異なります。

## 千葉県の県花

正式には決められていないようですが、昭和 29 年 4 月に一般から公募し、県の花として親しまれて来ているようです。



図 菜の花

## 千葉県内のきれいな菜の花が見られる場所

成田市の成田ゆめ牧場や<sup>じんべえ</sup>甚兵衛公園、<sup>たご</sup>多古町のあじさい公園、そして、やはり千葉県の<sup>みなみぼうしゅう</sup>南房州方面では多くの菜の花の見所があります。ぜひ調べて見に行ってみてください。

## その他

桃の節句<sup>せっき</sup>3月3日は皆さん<sup>ごそん</sup>御存じですね。また、菜の花が咲き競う<sup>きそ</sup>3月中旬から4月にかけて関東以西で春の<sup>ながあめ</sup>長雨がしとしとと降り続く、<sup>なたねづゆ</sup>菜種梅雨。アブラナ科の植物は、以前、花びらをタテに見ると十字形に見えることから<sup>しゅうじバナナ科</sup>シュウジバナナ科と呼ばれていました。(上記写真を参考に。)

## 菜の花の栽培

時期としては、今からでは遅いのですが、参考までに一般的な栽培方法を簡単に紹介しておきます。栽培は難しくありません。

○栽培場所 プランター、家庭菜園など

○栽培管理 <sup>がいちゅう</sup>害虫は、アオムシが発生しやすいです。手で取りましょう。日当たりの良い場所を選んで下さい。肥料は<sup>もとごえ</sup>元肥として<sup>かんこうせい</sup>緩効性肥料を、<sup>ついで</sup>追肥は1月頃から化成肥料を。

## ～自然観察舎 湿地の観察会のご案内～

実施時間	実施日
10:00～10:30	土曜日 日曜日 祝日
11:00～11:30	
13:30～14:00	
14:30～15:00	

【定員】

先着25名(当日受付)

【受付】

自然観察舎窓口

【電話】

047-340-4140





# 栄養ゼリーは母の味 ～クヌギカメムシ～

自然解説員  
むろのりゆき  
室紀行

厳しい寒さが続く二月は、一年のうちで最も寒い時期です。虫たちは、落ち葉の下や土の中、木の皮の裏などでじっと寒さに耐え、春の訪れを待っています。こんな季節は虫の観察をひと休みして、こたつで暖まりたくなくなってしまいますね。しかし身近な雑木林では、この時期だからこそ触れることのできる虫たちの営みが繰り広げられています。クヌギやコナラの林にはある変わり者の虫が住んでいて、なんとこの寒さの中で元気に卵から生まれてくるのです。



図 初夏のクヌギカメムシ

五月ごろ、初夏の雑木林を歩くと、鮮やかな緑色をしたカメムシに出会うことがあります。スリムな体型に長い触角をもったこのカメムシは“クヌギカメムシ”という名前で、その名の通りクヌギやコナラの木の汁を吸って暮らしています。



図 秋のクヌギカメムシ

初夏に大人になったばかりのクヌギカメムシは目の覚めるような緑色をしています。秋を迎えると、色づく山の木々のように触角や脚が黄色やオレンジ色に染まります。

木枯らしが吹いてクヌギの葉が散るころになると、クヌギカメムシたちが卵を産み始める季節です。はち切れんばかりに卵でお腹を膨らませた母親は、クヌギの幹に一行に卵を産みつけ、同時にお腹から緑色

のゼリーのようなものを出して卵を覆い隠します。十一月から十二月にかけて産みつけられた卵は、そのままこのゼリーの中で年を越します。

翌年の二月、なんとこんなにも寒い季節に、クヌギカメムシの幼虫は卵から生まれてきます。寒いうえに食べ物も見つからないこんな時期に生まれてきて大丈夫なのかと心配になってしまいますが、その必要はありません。孵化した幼虫たちはまだ遠くまで歩くことができませんが、母親が卵と一緒にたっぷり用意しておいてくれたゼリーを食べて、すくすくと育っていきます。春がきてちょうどクヌギの新芽が芽吹くころ、幼虫たちはゼリーを食べ終わります。母親が残してくれたゼリーで大きく育った幼虫たちは、枝の先までクヌギの幹を登ってゆき、自分の力で食べ物を探します。クヌギの新芽にたどり着いた幼虫はそこで木の汁を吸って育ち、五月ごろに立派な成虫になります。

母親が幼虫の食べ物を用意しなくてはならないのに、クヌギカメムシはどうして真冬に生まれてくるのでしょうか？わざわざ寒い冬に卵から出てくるのには、きっと何かしらの理由があるはずです。小さな虫たちは、いろいろな生き物に餌として食べられてしまいます。しかし気温の低いこの季節には、幼虫を捕まえて食べてしまうような天敵たちもなかなか動くことができません。その安全な時期

に成長して体を大きくすることで、天敵から襲われにくくなっているのではないかと、言われています。母親が卵に塗りつけるゼリーには、幼虫の食べ物になることのほかに、卵の乾燥を防いだり、成長に欠かせない微生物を親から子へと受け渡したりする役割があるそうです。最近になって研究が進んできたばかりで、まだまだ謎の多い虫といえます。



図 ゼリーに包まれた卵



図 羽化する前の幼虫

クヌギカメムシにはよく似た仲間がいて、背中側を見比べただけではなかなか区別が付きません。この公園は、クヌギカメムシ、ヘラクヌギカメムシ、サジクヌギカメムシという名前のついた三種類のクヌギカメムシが混ざって住んでいる、ちょっと珍しい環境にあります。初夏から晩秋にかけて、園内を散歩しているとクヌギカメムシの仲間がよく見られます。見つけた虫がどの種類なのか気になったら、自然観察舎の図鑑を使って一緒に調べてみましょう。カメムシなので、もちろん驚かされるとにおいを出しますが、カメムシと聞いて思い浮かべるものとは少し違った、甘みのある不思議なおいをもっています。

ちょうど今ごろの時期、クヌギカメムシの幼虫は卵から孵って母親からもらった栄養ゼリーを食べはじめます。どうやら今年は数が少ないようなのですが、野草園やつどいの広場の周りに生えているクヌギでその姿を見られるかもしれません。じっと寒さに耐えながらゆっくりと育つ彼らを、暖かく見守ってあげたいものです。

参考 クヌギカメムシの卵塊ゼリー—雑木林の樹皮上で育つ幼虫の秘密 遺伝 Vol.65 No.1 pp55-60.



## パークセンター2月・3月の催し物



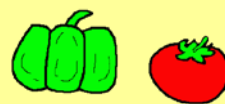
講座名	日時	定員	講師	費用	受付
バードウォッチング(雨天観察舎)	2月9日(日) 10:00から11:30	25名	自然解説員 直井宏氏	無料	1/15 から
植物ウォッチング「草木の冬芽観察(雨天時は屋内)」	2月23日(日) 10:00から11:30	25名	自然解説員 藤田泰氏	無料	1/15 から
昆虫ウォッチング「虫の冬越し(雨天時は屋内観察舎)」	3月1日(土) 10:00から11:30	25名	自然解説員 山口史穂、室紀行氏	無料	2/15 から
バードウォッチング(雨天観察舎)	3月2日(日) 10:00から11:30	25名	自然解説員 今村裕之氏	無料	2/15 から
園芸教室「春の種蒔きに挑戦」	3月9日(日) 13:30から15:00	20名	みどりの相談員 野島 博氏	200円	2/15 から
みどりの講習会「イギリスの名園 シンシングハーストでのハーブたち」	3月16日(日) 13:30から15:30	60名	ハーブ研究家 桐原春子氏	無料	2/15 から
園芸教室「グリーンカーテンの作り方」	3月22日(土) 13:30から15:00	45名	みどりの相談員 橋本倉司氏	無料	2/15 から
「ネイチャーゲームで春を探そう」	3月23日(日) 10:00から12:00	20名	松戸ネイチャーゲームの会	200円	2/15 から
植物ウォッチング(雨天時は屋内)	3月29日(土) 10:00から11:30	25名	自然解説員 加藤裕一氏	無料	2/15 から
園芸教室「楽しく作る～つるバラでハート仕立て」	3月29日(土) 13:30から15:00	24名	みどりの相談員 丸尾三恵子氏	1000円	2/15 から

※すべての催し物が、予約制となっております。電話、または直接パークセンター窓口でお申込下さい。





## みどりの相談室



パークセンター「みどりの相談室」では、相談員の先生が園芸に関するさまざまな質問に無料でお答えします。電話でもお受けしていますのでお気軽にご相談下さい。

【相談日】 水・土・日曜日と祝日

【時間】 午前10時～12時・午後1時～3時30分

【電話】 047-345-8738 ハナミツバチ

## ★ご来園の皆様へお願い★

安全、快適に公園を利用させていただくため、本公園ではいくつかのルールがあります。**自転車**（キックボード含む）の乗り入れ、**ペット**の持ち込み、**テント**設営、**魚釣り**（たこ糸を使ったザリガニ釣りはOK、テグスは不可）などは禁止となっています。また**動植物の採集**や鳥などへ**エサをやる**こともかたくお断りしています。きれいな花もみんなで採ったら無くなってしまいますし、かわい可愛いからと、人間の食べ物を鳥などにあげると自分でエサを捕れず、自然界で生きていけなくなり、かえってかわいそうなことになってしまいます。ルールを守って楽しく過ごして下さいね。

## パークセンタークイズ

**Q** アブラナ科の植物は、昔はなんと呼ばれていたでしょう

- ① ハートバナ科 ② ジュウジバナ科 ③ ダイヤバナ科

**Q** クヌギカメムシは、生まれてすぐは何を食べているでしょう。

- ① ケーキ ② おせんべい ③ ゼリー

答えは「どんぐり」の中にあるよ



発行日：2014年2月1日  
発行：21世紀の森と広場パークセンター  
開館：9：00～16：00  
（3月1日からは9：00～16：30）  
月曜休館（祝日開館／翌日休館）  
〒270-2252 松戸市千駄堀269  
TEL 047-345-8900  
<http://www.city.matsudo.chiba.jp/>

- ・ゴミは家までお持ち帰り下さい。
- ・なるべく公共の交通機関をご利用下さい。

